

## 3つ組の障害

社会性  
コミュニケーション  
こだわり

気付かれにくい  
見過ごされやすい

### 1. 社会性

視線が合いにくい

マイペース

介入を嫌がる

かかわりが一方的

友人関係を作る  
ことに興味を示  
さない



他人との楽しみを共有することが  
難しい



共感の指さしがない

他人に指図してしまう

アスペルガー症候群の基本症状は、3つ組の障害であると言われています。社会性の障害、コミュニケーションの障害、こだわり(今は想像性の障害と言われています)です。さらに、気付かれにくいというのも特徴です。

言葉が出ていて、知能もそれなりにあるので、1歳半健診や3歳児健診では気付かれにくいんです。ちょっと変わってるとか、ちょっとしたことで怒るという程度で、普通に話し、受け答えもちゃんとするから「問題ないでしょう」ということになりやすいのです。

そのために、幼稚園時代も小学校時代も特別な支援教育が必要だとは思われない。就学前も早期教育とか早期療育の対象にあがってこないことが多いですね。

3つ組の障害の中で、成人してから大きな問題となるのは、社会性の問題です。

視線が全く合わないことはないのですが、「視線を合わすのがちょっとつらい」と彼らは言います。「できたら視線を合わさない方がいい」と言います。

また、非常にマイペースな人たちです。だから、周りからごちゃごちゃ介入されることはとっても嫌なんです。人とかかわろうとする気持ちはあるんですが、いつも一方的です。

友人関係を作ることに興味を示さないことも多いようです。と言っても、友達を作りたい時期もあります。しかし、どうしても友達が必要かというところでもないんです。お母さんとか先生が「友達を作った方がいいよ」と言うから、「友達は必要なんだ」と観念の中で生まれるだけで、本当に友達が欲しいという感情が生まれるわけではないことが多いんです。

他人と楽しみを共感して共有することが難しいという特徴もあります。これは、言葉が出る前に見られる『指さし』にも現れます。高い所の物や絵本を指さしたりして、取って欲しいとか、読んで欲しいという要求の『指さし』がまず出てきます。

その次に、例えば新幹線が通ると「わー新幹線や」と、自分だけでなく隣にいるお母さんにも「見て」「わーあれあれ」と言わんばかりに指さしをする。そういった共感の指さしがないんです。

一緒に遊んでいてもマイペースであったり、かかわりが一方的であったりします。頭で思い描いている自分の遊びがあるんです。そんなときに、人に「こうしなさい、ああしなさい」と指図してしまうんですね。

1番でないと気がすまない

ソーシャルスキルトレーニング  
Social Skills Training ; SST

他者とかかわる技能(スキル)  
を高めるためのトレーニング

生まれながらの民主主義者

恥ずかしさや周囲に迷惑がかかる  
ことが分からない

ひとつずつ ていねいに

相手の気持ちを傷つけていることが  
分からない



規則を厳格に適用する

また、自分が1番でないと気がすまない、“一番病”というものがあります。ゲームでも勝っているときはいいんですが、負けてしまったら大変なんです。競争しているときも1番でなかったら納得いかないんですね。勝つまで、何回でも「しよう」と言ったり、ゲームをクチャクチャにしたりしてしまうんです。1番でなくてもいい、いつも1番にはなれないということがソーシャルスキルとして身に付いてこないといけないんですが…。そういうのを一つ一つ教えていくソーシャルスキルトレーニング(SST)が大事になってきます。

校長先生や教頭先生は偉いとか、6年生には敬語を使うというような観念は全くなく、年齢とか権威とか序列というような概念が入りにくいのです。我々は“生まれながらの民主主義者”と言っています。だから年上の人でも平気で呼び捨てにしてしまいます。それがなぜ悪いのかは分からないんです。そのときも「年長の人には～さんと言わなあかんねんで」と教えていかなければなりません。教えれば、「そういうもんですか」「そうします」と分かるんです。

恥ずかしいということや、周囲に迷惑がかかるということがなかなか分からないんです。例えば、授業中に「生理になりました」と言う子どももいます。そのときにも「授業中に手を挙げて、みんなの前で言うことではなくて、そつと仰うのです」と教えることが大事です。また、誘われてもいないのに人の家に勝手に上がり込んでしまったりします。

こちらから見て「えーっ」と言うようなことが、アスペルガー症候群の子どもたちからすると「なんで?」「どうしていけないの?」ということになるのです。当たり前前分が分からないので、一つ一つていねいに説明してあげなければなりません。

本人は人を傷つけるつもりはないんだけど、太っている人に「デブだね」とか、校長先生に「ハゲだね」と言ってしまう。本人は悪いこととは思っていないので平気で言うわけです。子どもの間は笑っていられるけれども、ちゃんと教えてあげないと、20歳すぎても同じようなことを言ってしまうんです。そういったものの積み重ねが社会で生きにくくなる原因になるんです。

黒板を消す役になるとみんなが書いていてもバーッと消しちゃう。そんなときは「みんなが書いているから、消しちゃいけないよ」と教えてあげなければいけません。別に意地悪しているわけではないのです。ただ一つずつていねいに教えてあげる必要があるのです。それを「あいつは意地悪や」と

“暗黙の了解”が分からない



場の雰囲気を読めない

相手の意図が読み取れない

対人的な距離感がつかめない

感情表現がうまくできない

## 2. コミュニケーション

多弁なわりに助詞や受動文などの理解と使用が難しい

多義語や慣用表現の理解が難しい

字義どおりの解釈



か「自分のことしか考えてへん」とか思われてしまうんですね。そんなとき、先生は介入して、そうではないことを、本人と周りの子に理解させていかなければいけないんです。

“暗黙の了解”ということが分からないことも多いです。給食で、順番に並ぶことは教えなくても並ぶんですが、なぜ並ぶのかが分からないから、一番前に行くわけなんですよ。

悪いことをしているという気はさらさらなくて、「一番後ろにつきなさい」ということを教えてあげれば「あっそうか」ということで並ぶんです

いったんルールを理解するとそのことに対しては非常に厳格なんです。逆に他の人がちょっとでもルールをはずしていると、許せない。とても厳格。チャイムが鳴ったら授業は終わりって思ったら、授業を続けようとしても「チャイムが鳴ったら授業は終わりや」と言うんですね。

場の雰囲気を読めない、相手の意図を読み取ることができない。例えば、だらだら勉強しているのを見て、お母さんが「勝手にしなさい、勉強しなくてもいい！」と言うと「勝手にしていいんや、勉強しなくていいんや」と思うわけです。「勝手にしなさい」「勉強しなくていい」ということをちゃんとその通り受け取り「じゃあ勉強しません」と思うわけです。

人は言葉遣いを変えることで、相手との距離を測っています。それができないと、初対面の人にべたべたひつついて行ったり、全然関係ないのに、目が合っただけですごく不安になったり、ということになります。人との距離の取り方もソーシャルスキルとして、身に付けていかなければなりません。

また、人の表現している感情が理解できない、自分が話するときもその感情表現がうまくできないということがあります。

**言葉の獲得がいいので、会話ができ、多弁です。でも...**

「てにをは」が難しかったり、受け身と能動の文章の使い分けができずに、「もらう」「やる」という言葉の意味を理解するのが難しかったりすることがあります。

一つの言葉にいろんな意味があると非常に難しいのです。

『三日坊主』というような表現は理解しにくく、字義どおりの解釈しかできません。非常にIQの高いお子さんでもそれはなかなかできないようです。例えば、「家にまっすぐに帰って来なさい」と言われると“まっすぐの道”を行かなければならないと思って「あそこの道、曲がっているけれど、どうしよう」と思ってしまいます。「猫の手も借りたい」というと、「じゃあ猫持ってきたらいいんかな」と思うのです。まじめ

必要以上に細かい情報にこだわって話す

声の大きさの調整が下手、1本調子な話し方

自分の気持ちをうまく表現できない  
表情が単調だったり不自然

独り言が多い

話題と無関係なことを言う

他人の発言を遮ったり、割り込んで話す

### 3. こだわり

同じであることへのこだわり

固定された習慣

対象の細部へのこだわり

強迫的思考

特別な興味



**タイムスリップ現象** …… 昔のことを今、ほんのちょっと前にあったように新鮮な感覚で思い出すようです。

昔、起こった嫌なことを突然思い出して、パニックになってしまうことがあります。周りは何を怒り出したのかわからず、不適切な対応をしてしまうことが多いのも事実です。「だめ!」「なにしてんの!」という**禁止の言葉が引き金になって思い出すことがあるようです**。時間の感覚が少し異なっているようです。

にそうってしまうんです。「赤信号は止まれ」「青信号は進め」ということを教えられると、映画『レインマン』であったように、横断歩道を渡っている途中でも止まってしまうんです。きちんと字義どおり解釈をしてしまうんですね。

細かいことにこだわってしまい、全体をおおざっぱにつかまえて言うことができにくいです。

声を小さくして話すことができず、電車の中でも大きな声で話してしまいます。声のトーンを調節することも難しく、自分の気持ちをうまく表現できない。表情もあまり変らなかったり、非常に単調になったりするので、彼らがどう思っているのかがつかみにくかったりします。

**独り言も多いですが、これは無理にやめさせてはいけません**。ストレスを発散していると思えるからです。授業中に大きな声で独り言を言うと人に迷惑をかけるので、**迷惑をかける程度にするよう促す必要はありますが**、基本的にはあまり注意をしない方がよいと思います。

全然関係ない話を突然言い出したり、場の雰囲気と全く違う質問をしたりします。彼らは彼らなりに何かを思っていたんでしょね。気になるからパッと質問してしまう。他人の発言を遮ったり、話していても割り込んで発言したりします。ADHDと似ているところがあって、区別がつきにくいアスペルガー症候群の子どもたちもいます。

例えば、昨日と今日が同じ道順、置いてある物は毎日同じ、同じ種類の衣服、同じマークが付いていないといけないというように、習慣が固定化されていることです。夜11時に寝るとなると、試験前で勉強がまだまだ残っているのに「11時だ、寝なきゃいかん」となってしまいます。

細かいところにこだわることもあります。ミニカーでも走らせるのを楽しむのではなくて、右側のヘッドライトはどうなっているのか、タイヤのこの部分は...というように細かい部分にこだわるのです。

同じことを何度も考える強迫的な思考もあります。何度も確認しないと気がすまなかったり、特別な興味をもったりします。SLに興味があれば日本全国どこへでも行ったり、空き缶を集めたり...興味がとても細かく深くなっていくのです。